

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について

光市教育委員会学校教育課

調査の概要

- 1 目 的** 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 2 調査期日** 令和7年4月17日（木）
※中学校理科の実施日：令和7年4月14日（月）～4月17日（木）のうち1日
- 3 調査対象** 光市立小学校第6学年児童（8校） 光市立中学校第3学年生徒（5校）
- 4 調査内容** (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科） ①と②を一体的に出題。
※中学校理科は、MEXCBTによるオンライン方式で実施
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい 知識・技能など
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- (2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・達成感、規範意識、自己有用感等
 - ・ICTを活用した学習状況
 - ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
 - ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

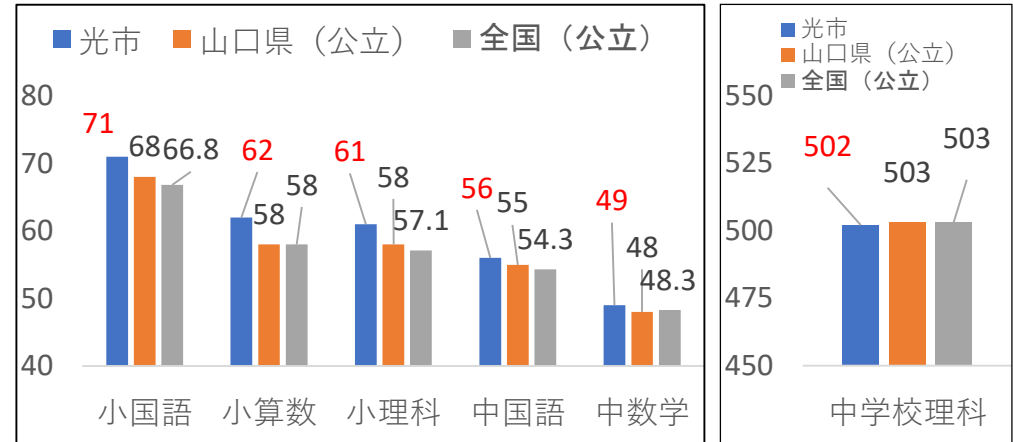
教科に関する調査結果

1 結果と分析

(1) 本年度の結果（平均正答率（％）、平均 I R T スコア）

※平成29 年度から、都道府県・市町村における平均正答率は整数値で提供

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
光市	71	62	61	56	49	502※
山口県（公立）	68	58	58	55	48	503※
全国（公立）	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503※



※平均 I R T スコアを記載

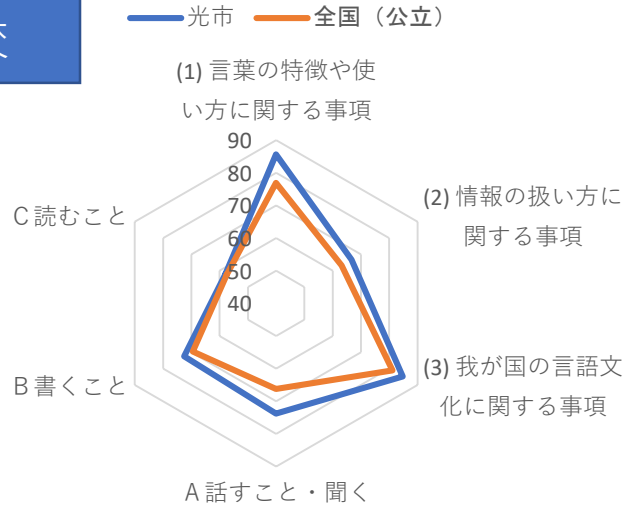
(2) 平均正答率の推移（令和4年～令和7年度の4ヶ年を通して）

※全国平均を100とし、数値の差を表したものの。

	小学校			中学校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
R4	97.6	96.5	99.5	107.2	105.1	-	105.5
R5	102.6	104	-	106	109.8	89.9	-
R6	104.8	100.9	-	101.5	106.6	-	-
R7	106.3	106.9	106.8	103.1	101.4	-	-

領域別結果（国語）

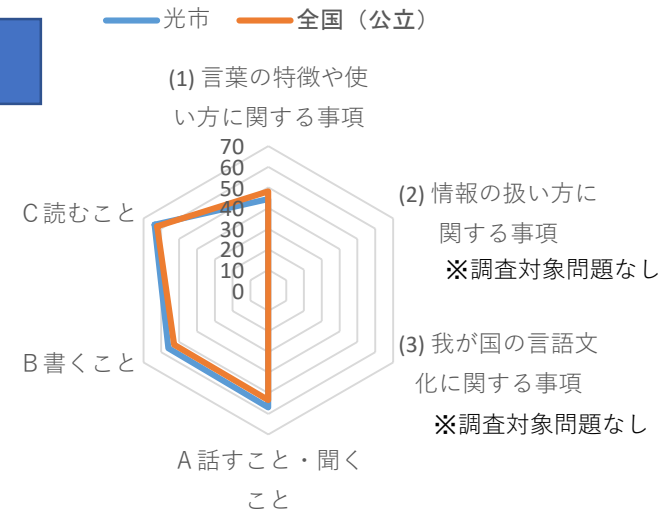
小学校



		平均正答率(%)			全国平均との差
		光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体		71	68	66.8	4.2
知識	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	85.6	78.6	76.9	8.7
および	(2) 情報の扱い方に関する事項	66.7	64.9	63.1	3.6
技能	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.8	81.9	81.2	3.6
思考力	A 話すこと・聞くこと	73.8	68.5	66.3	7.5
判断力	B 書くこと	72.6	71.7	69.5	3.1
表現力	C 読むこと	57.9	57.6	57.5	0.4

○ 思考力・判断力・表現力については、話すこと・聞くことについて、大きな成果が見られる。日々の授業における話し合い活動や、条件作文などの短時間学習、学びの「振り返り」において言葉にする取組、読書活動の推進等が組織的に展開されている成果が表れていると考えられる。

中学校

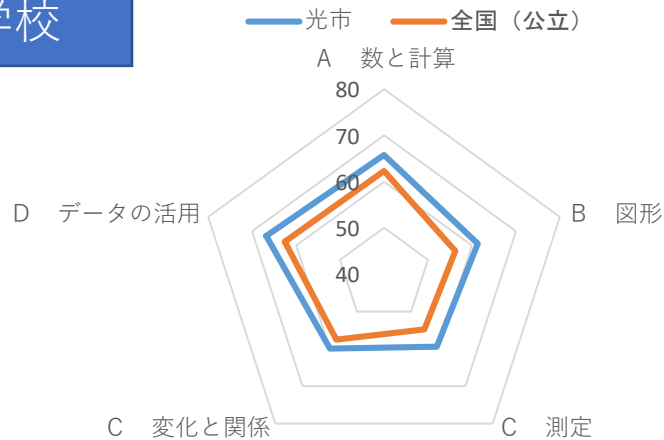


		平均正答率(%)			全国平均との差
		光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体		56	55	54.3	1.7
知識	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	44.4	46.9	48.1	-3.7
および	(2) 情報の扱い方に関する事項	-	-	-	-
技能	(3) 我が国の言語文化に関する事項	-	-	-	-
思考力	A 話すこと・聞くこと	56.9	54.3	53.2	3.7
判断力	B 書くこと	56.1	53.9	52.8	3.3
表現力	C 読むこと	63.7	62.6	62.3	1.4

○ 文脈に即した漢字を正しく使うなど言葉の特徴や使い方に関する基本的な知識および技能の習得に向けた取組を充実させる必要がある。また、読み手の立場に立って、語句の用法等を確認、文章を整えることができるようにするなど、読み解き、表現する力を引き続き身に付けさせていく必要がある。

領域別結果（算数・数学）

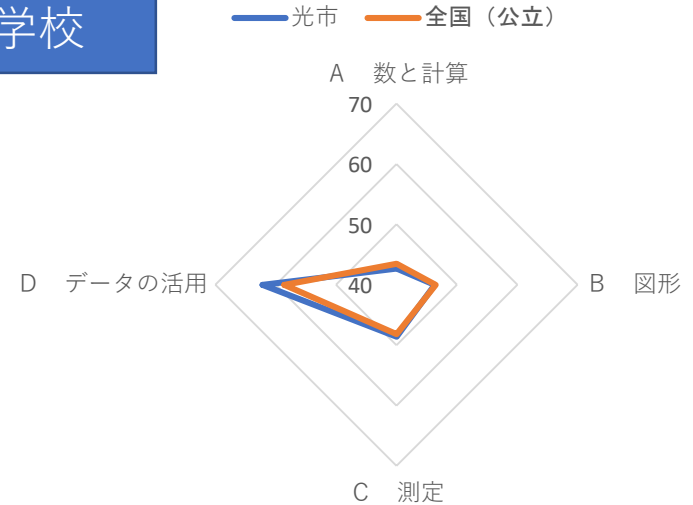
小学校



	平均正答率(%)			全国平均との差
	光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体	62	58	58	4
A 数と計算	65.8	61.5	62.3	3.5
B 図形	61.3	57.5	56.2	5.1
C 測定	59.4	55.6	54.8	4.6
C 変化と関係	59.9	55.1	57.5	2.4
D データの活用	66.8	62.4	62.6	4.2

○日々の授業における知識・技能の定着に向けた取組や、思考力・判断力・表現力を育む取組等が組織的に展開されている成果が表れていると考えられる。

中学校

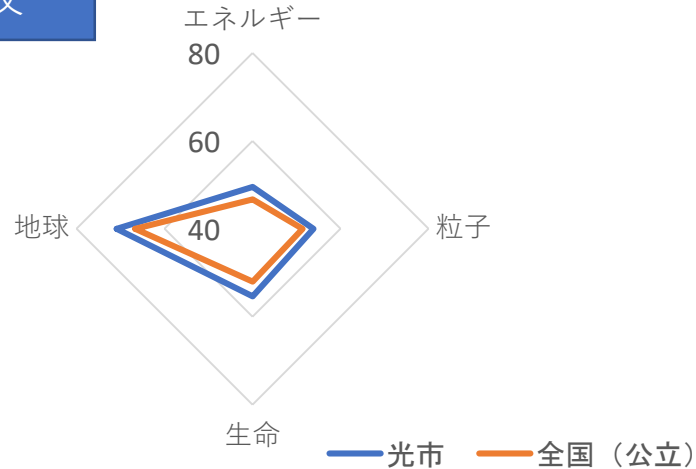


	平均正答率(%)			全国平均との差
	光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体	49	48	48.3	0.7
A 数と式	42.7	41.9	43.5	-0.8
B 図形	46.3	45.2	46.5	-0.2
C 関数	48.6	47.9	48.2	0.4
C 測定	62.2	59.5	58.6	3.6
D データの活用	62.2	59.5	58.6	3.6

○「データの活用」領域において成果が見られる。「数と式」の領域に課題が見られる。基礎基本の定着に向けた取組を推進するとともに、式の意味を読み取る力、数学的な表現を用いて説明することができる力などを身につける必要がある。

領域別結果（理科）

小学校

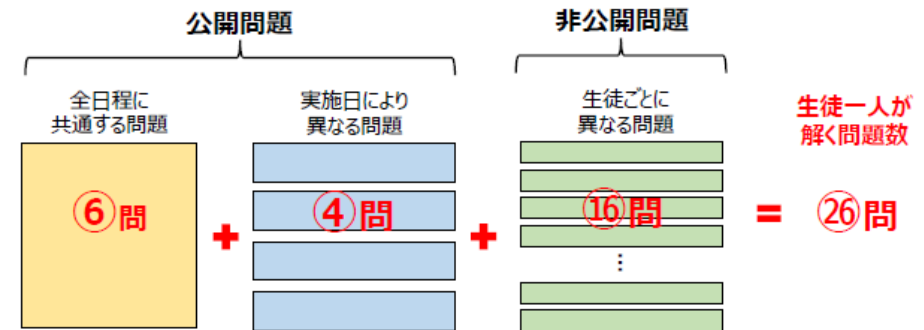


	平均正答率(%)			全国との差
	光市	山口県（公立）	全国（公立）	
全体	61	58	57.1	3.9
エネルギー	49.5	47.9	46.7	2.8
粒子	53.9	51.7	51.4	2.5
生命	55.4	54.8	52	3.4
地球	70.9	67.2	66.7	4.2

○ 理科専科教員等との連携により、丁寧な授業が展開され、日々の授業における知識・技能の定着に向けた取組や、思考力・判断力・表現力を育む取組等が組織的に展開されている成果が表れていると考えられる。

中学校

※中学校理科については、I R T（Item Response Theory：項目反応理論）でテストが実施（生徒ごとに異なる問題で構成）されており、光市全体での領域別結果が算出できないため、記載しておりません。



児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

将来の夢や目標を持っていますか

小学校

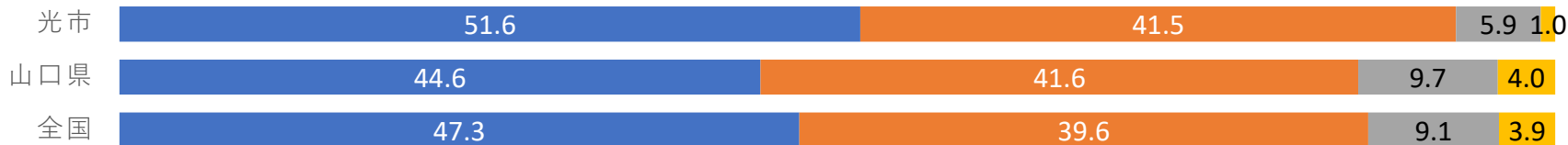


中学校



自分にはよいところがあると思いますか

小学校



中学校

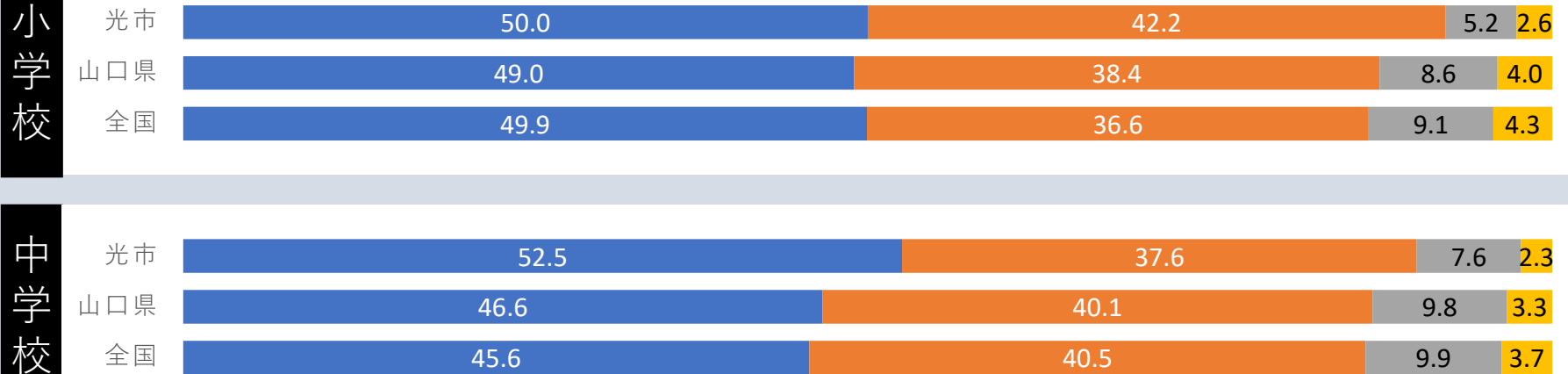


児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

学校に行くのは楽しいと思いますか



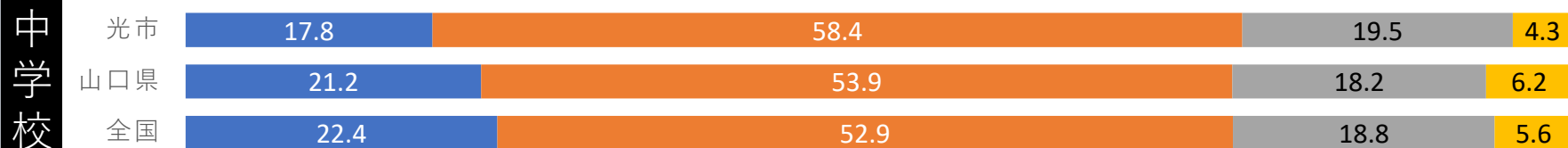
「将来への夢や目標を持っていますか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は全国の回答に比べて高く、さらに「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合も、全国の回答に比べて高い傾向がある。

本市のコミュニティ・スクールの機能を生かし、行事等の活動が工夫して実施されてきたことにより、様々な他者から児童生徒一人ひとりのよさが具体的に認められたり、適切に評価されたりすることなどにより、自己肯定感・自己有用感等が高まっていると考えられる。

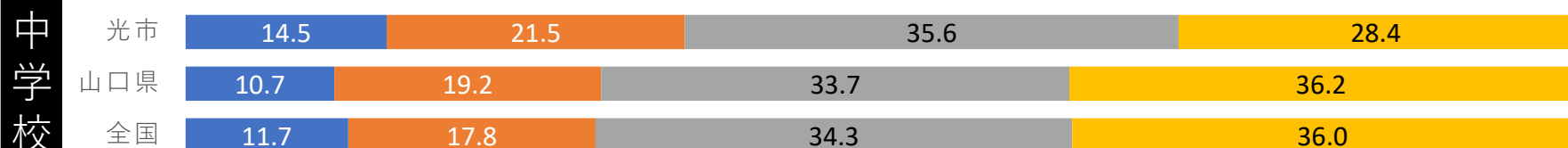
児童生徒質問紙の結果

②地域との関わりに関する質問 ■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）



児童生徒質問紙の結果

②地域との関わりに関する質問

人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校



中学校



「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」の質問に対して、肯定的な意見は、全国平均より高い結果となっている。例年、本市は中学生の地域貢献に対する意識が高い傾向にあったが、地域の方とのかかわりを通して、ここ数年は、小学生の意欲の高まりが見られる。これも、コミュニティ・スクールの機能を生かした地域とともにある学校づくりの成果であると考えられる。

今後も地域とのつながりを大切にするとともに、「社会に開かれた教育課程」の一層の充実を図り、主体的に社会に参画しようとする意識や態度の醸成に努める。

児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

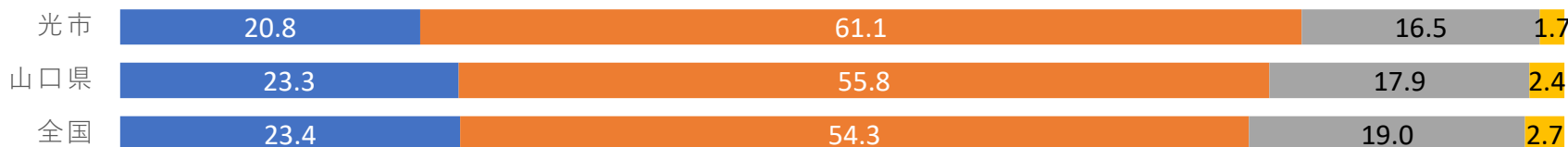
■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校



中学校

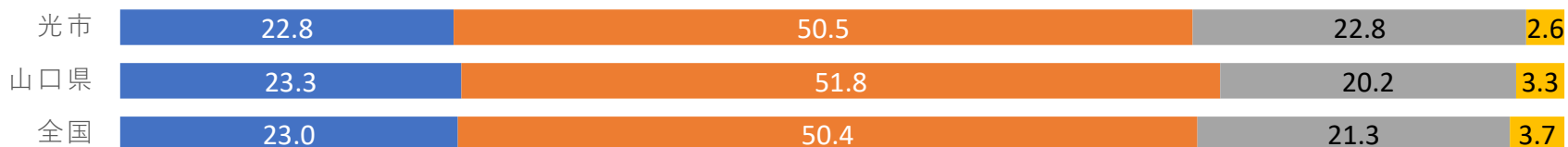


学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

小学校



中学校



児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

小学校

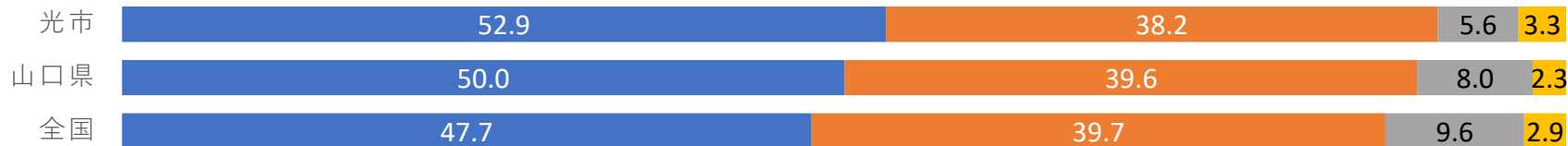


中学校



先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

小学校



中学校

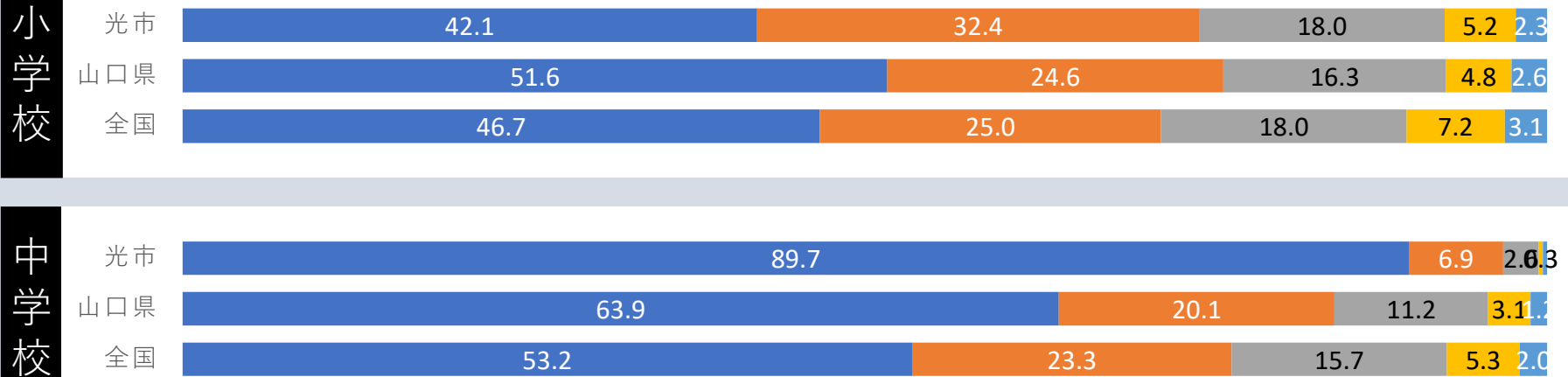


児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」という質問については、小・中学校ともに全国、県を上回っている。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」という質問に、肯定的に回答した割合についても全国、県を大きく上回っている。全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善が行われていると捉えている。

ICT機器の使用頻度については、中学校では、全国および県平均を大きく上回っている。小学校では、ほぼ毎日活用する児童の割合は全国、県を下回った。学年によって使用頻度が大きく異なる可能性もあることから、タブレット端末を含む多様な教具を効果的に活用する授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりにつなげていく。

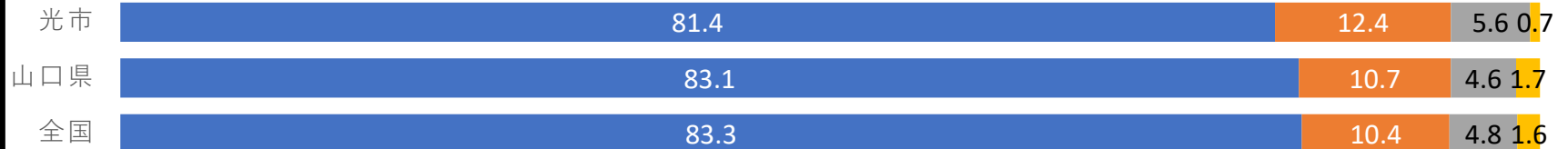
児童生徒質問紙の結果

④家庭での生活習慣・学習習慣に関する質問

朝食を毎日食べていますか

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

小学校



中学校



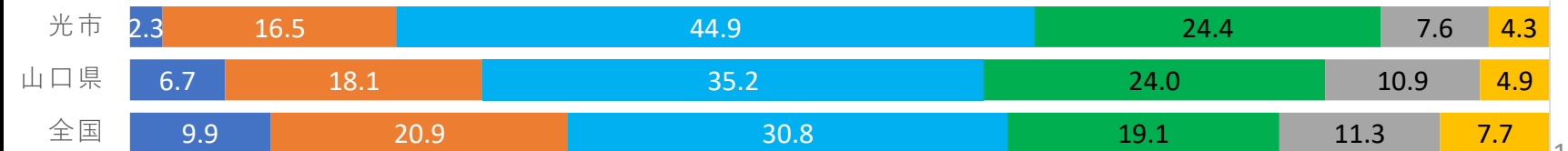
平日一日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか（学習塾・家庭教師・インターネットを活用した勉強時間を含む）

■3時間以上 ■2～3時間 ■1～2時間 ■30分～1時間 ■30分以下 ■全くしない

小学校



中学校

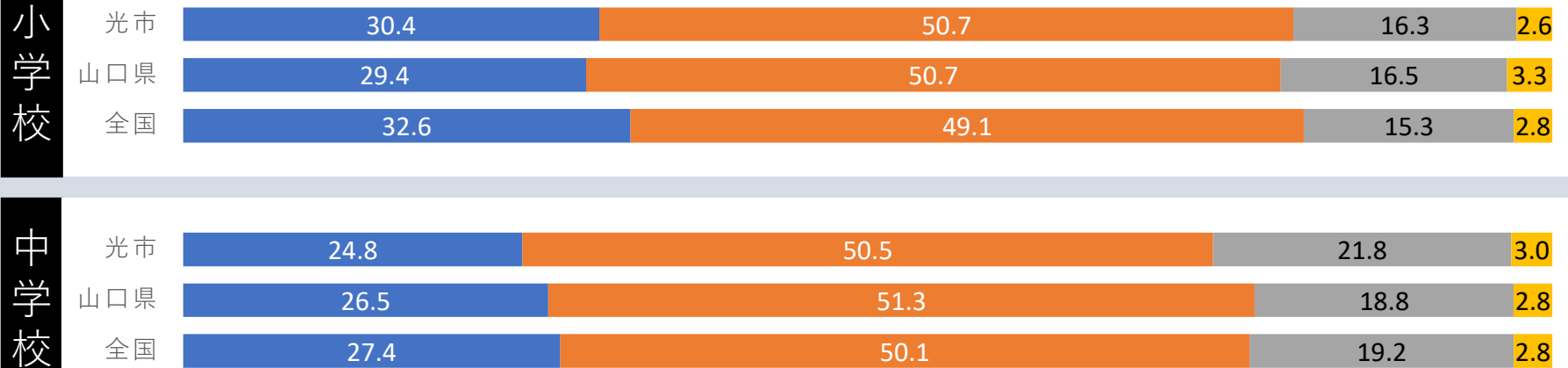


児童生徒質問紙の結果

④家庭での生活習慣・学習習慣に関する質問

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない



「朝食を毎日食べていますか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は全国平均と同程度もしくは若干高いが、一定数の児童生徒が朝食を食べていない状況であることがわかる。学校での食育指導をさらに進め、自らの健康を守る意識が高まるようにするとともに、より多くの児童生徒が朝食を摂ることができるよう家庭と連携した取組を進める必要がある。

家庭学習の時間については、小・中学校とも平日30分間以上学習している割合が全国平均より高いものの、2時間以上学習している割合は全国より低くなっている。

自分で学び方を考え、工夫することができていると肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を下回っている。自分に合った学び方で計画的に家庭学習を行い、自己の目標を達成していく力は重要になることから、今後も引き続き、学校教育と家庭教育との連携を密にし、家庭学習の習慣の定着と内容の工夫に努めていく。